



## 平成25年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年8月13日

上場会社名 ジャパンベストレスキューシステム株式会社

上場取引所 東 名

コード番号 2453 URL <http://www.jbr.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 榎原 暢宏

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長 (氏名) 鈴木 良夫

TEL 052-883-0850

四半期報告書提出予定日 平成25年8月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成25年9月期第3四半期の連結業績(平成24年10月1日～平成25年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年9月期第3四半期	7,728	39.5	699	35.0	684	42.2	394	61.2
24年9月期第3四半期	5,541	△0.2	517	3.0	481	4.5	244	△27.8

(注) 包括利益 25年9月期第3四半期 442百万円 (73.1%) 24年9月期第3四半期 255百万円 (△21.0%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年9月期第3四半期	6,599.35	6,591.08
24年9月期第3四半期	3,829.92	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年9月期第3四半期	11,218	2,798	23.0	45,187.88
24年9月期	9,640	2,860	28.3	43,584.27

(参考) 自己資本 25年9月期第3四半期 2,579百万円 24年9月期 2,727百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年9月期	—	500.00	—	1,000.00	1,500.00
25年9月期	—	500.00	—	—	—
25年9月期(予想)	—	—	—	1,000.00	1,500.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成25年9月期の連結業績予想(平成24年10月1日～平成25年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,401	39.8	784	29.2	741	36.0	411	58.5	6,953.90

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有  
新規 1社 (社名) 株式会社バイノス、除外 1社 (社名)

(注)詳細は、添付資料P.4「2.サマリー情報(注記事項)に関する事項(1)当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動」をご覧ください。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P.4「2.サマリー情報(注記事項)に関する事項(2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 無  
④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)  
② 期末自己株式数  
③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年9月期3Q	68,858 株	24年9月期	68,858 株
25年9月期3Q	11,777 株	24年9月期	6,272 株
25年9月期3Q	59,792 株	24年9月期3Q	63,910 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.4「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項 .....	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	4
3. 四半期連結財務諸表 .....	5
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	8
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	9
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	9
(5) セグメント情報等 .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、欧州債務問題の小康状態に伴う輸出や生産の持ち直しに加え、円安、株価上昇等によって、緩やかな回復基調を維持しました。雇用と賃金の先行きの不安や、円安による原材料高騰等の影響が有るものの、個人の消費マインドは底堅く、企業の業況も緩やかに改善しております。

このような状況の下、当社グループは「困っている人を助ける」という経営理念に基づき、既存事業の強化と新たな成長基盤の確立に取り組んでまいりました。更なるお困りごとの対応範囲を拡大するため、子会社の株式会社バイノスを通じて環境メンテナンス事業を展開し、主として福島県の地方自治体等の復興計画に基づいた放射性物質の除染事業に当たっております。

当第3四半期連結累計期間における売上高は、7,728,281千円（前年同期比39.5%増）、営業利益は699,163千円（前年同期比35.0%増）、経常利益は684,259千円（前年同期比42.2%増）となり、四半期純利益は394,588千円（前年同期比61.2%増）といずれも過去最高の業績となりました。

なお、当第3四半期連結累計期間における作業件数はガラス関連サービス16千件、水まわり関連サービス30千件、カギの交換関連サービス44千件及びパソコン関連サービス15千件です。また、生活会員（ライフデポ会員を除く）の当期入会会員は323千人（継続入会を含む）となりました。

各セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### ① コールセンター事業

コールセンター事業におきましては、カギ、パソコン等はほぼ前年同期並みの業績となりましたが、競合の攻勢等によって受付件数が全般的に低迷したため、コールセンター事業全体の売上高は前年同期を下回りました。

当第3四半期連結累計期間におけるコールセンター事業は、カギ部門の売上高が310,763千円（前年同期比4.1%減）となり、パソコン部門の売上高が61,730千円（前年同期比3.7%減）となっております。

この結果、コールセンター事業全体の売上高は、459,075千円（前年同期比5.6%減）となり、売上高の減少により、営業利益は99,206千円（前年同期比17.8%減）となりました。

#### ② 会員事業

会員事業におきましては、提携企業の賃貸住宅入居者向け「安心入居サポート」会員、家電・住宅設備機器のメーカー保証期間終了後をサポートする「あんしん修理サポート」会員及び全国大学生生活協同組合連合会の「学生生活110番」会員の販売が拡大し、いずれも入会会員を順調に伸張しております。

当第3四半期連結累計期間における会員事業は、「安心入居サポート」会員の売上高が1,735,464千円（前年同期比56.4%増）、「あんしん修理サポート」会員の売上高が66,211千円（前年同期比98.8%増）、「学生生活110番」会員の売上高が137,795千円（前年同期比34.3%増）、「ライフサポートパック」会員等の売上高が371,178千円（前年同期比7.5%減）となりました。

この結果、会員事業全体の売上高は、2,397,500千円（前年同期比38.5%増）となり、主に「安心入居サポート」会員の売上高の増加が貢献したことにより、営業利益は648,215千円（前年同期比29.9%増）となりました。

#### ③ 企業提携事業

水の救急車事業におきましては、ほぼ前年同期並みの業績となっております。

旭硝子ガラスの救急車事業におきましては、ガラスの緊急割れ換え及び窓や玄関ドア等のリフォームの伸び悩みにより、前年同期の売上高を下回りました。

コールセンター受託事業では、顧客企業のコールセンターと作業出動をワンストップで提供しております。当第3四半期連結累計期間における現場出動作業は堅調に推移するとともに、コールセンター受託企業数も引き続き順調に増加し200社（前年同期受託企業数177社）となっております。

当第3四半期連結累計期間における企業提携事業は、水の救急車事業の売上高が1,243,411千円（前年同期比2.1%減）、旭硝子ガラスの救急車事業の売上高が505,974千円（前年同期比12.0%減）、セコムウィン事業の売上高が58,292千円（前年同期比7.6%減）、コールセンター受託事業の売上高が465,194千円（前年同期比3.2%増）となりました。

この結果、企業提携事業全体の売上高は、2,272,872千円（前年同期比3.6%減）となり、営業利益は172,619千円（前年同期比23.8%増）となりました。

#### ④ 加盟店事業

加盟店事業におきましては、プロモーション業務等による加盟店への売上高が130,996千円（前年同期比4.1%増）となりましたが、生活救急車全般のプロモーションに関連する広告宣伝費を当セグメントで負担しているため、営業損失は205,549千円（前年同期は営業損失217,624千円）となりました。

なお、加盟店数は464拠点、協力店数は1,060拠点となっております。

#### ⑤ 少額短期保険事業

少額短期保険事業におきましては、賃貸住宅の家財を補償する「新すまいRoom保険」が順調に伸びていることにより、売上高は1,285,278千円（前年同期比50.5%増）となりましたが、保険業法第113条繰延資産への費用繰り延べ終了の影響により、営業利益は120,362千円（前年同期比21.1%減）となりました。

#### ⑥ 自動車賃貸事業

自動車賃貸事業におきましては、一般顧客向け高級車等の賃貸は伸び悩みましたが、株式会社バイノスが実施する除染事業の拡大に伴う作業用車両の増加により、売上高は207,134千円（前年同期比20.4%増）となり、営業利益は31,915千円（前年同期比136.2%増）となりました。

#### ⑦ 環境メンテナンス事業

新たに開始いたしました環境メンテナンス事業におきましては、連結子会社株式会社バイノスがセシウム、ストロンチウム等の放射性物質を効率的に取り込む新種の微細藻類「バイノス」の特性を活かした排水・廃液及び廃棄物処理、除染作業等の事業を展開しております。この環境メンテナンス事業が順調な滑り出しを見せたことで、売上高は982,114千円となりましたが、作業用重機及び貸借車両に関する初期費用やのれんの償却26,336千円が発生したため、営業利益は27,858千円となりました。

#### ⑧ その他の事業

その他の事業におきましては、医療機器事業が順調に推移したことで、売上高は316,101千円（前年同期は1,366千円）となりましたが、先行して投じた広告宣伝費等の増加により、営業損失は13,232千円（前年同期は営業損失210千円）となりました。

### (2) 連結財政状態に関する定性的情報

#### (流動資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産の残高は、前連結会計年度末と比べ1,033,671千円増加し、8,858,267千円となりました。これらは主に、現金及び預金が211,860千円減少したものの、受取手形及び売掛金が1,274,048千円増加したことによるものです。

#### (固定資産)

当第3四半期連結会計期間末における固定資産の残高は、前連結会計年度末と比べ606,512千円増加し、2,228,268千円となりました。これらは主に、株式会社バイノスを子会社化したこと等により、のれんが283,661千円、投資その他の資産(その他)が384,899千円増加したことによるものです。

#### (繰延資産)

当第3四半期連結会計期間末における繰延資産の残高は、前連結会計年度末と比べ62,003千円減少し、131,693千円となりました。これは主に、少額短期保険事業に係る保険業法第113条繰延資産が61,915千円減少したことによるものです。

#### (流動負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債の残高は、前連結会計年度末と比べ850,645千円増加し、5,069,761千円となりました。これは主に、短期借入金が320,000千円、買掛金が285,086千円、流動負債(その他)が266,887千円増加したことによるものです。

#### (固定負債)

当第3四半期連結会計期間末における固定負債の残高は、前連結会計年度末と比べ788,808千円増加し、3,349,665千円となりました。これは主に、長期借入金が580,136千円、固定負債(その他)が208,672千円増加したことによるものです。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産の残高は、前連結会計年度末と比べ61,272千円減少し、2,798,802千円となりました。これは主に、利益剰余金が302,739千円、少数株主持分が87,122千円増加したものの、自己株式が482,758千円増加したことによるものです。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

通期の連結業績予想に関しましては、平成25年8月12日に公表いたしました開示資料をご覧ください。

## 2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

株式会社バイノスは、株式を追加取得したことに伴い、特定子会社となりました。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

### 1. 簡便な会計処理

#### ①一般債権の貸倒見積高の算定方法

当第3四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められる場合には、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。

#### ②固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

### 2. 特有の会計処理

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,376,343	6,164,482
受取手形及び売掛金	557,399	1,831,447
有価証券	100,000	100,000
商品及び製品	77,811	32,679
仕掛品	—	9,584
その他	779,881	726,124
貸倒引当金	△66,838	△6,051
流動資産合計	7,824,596	8,858,267
固定資産		
有形固定資産	177,545	279,579
無形固定資産		
のれん	23,851	307,513
その他	180,125	155,670
無形固定資産合計	203,976	463,184
投資その他の資産		
投資有価証券	686,320	628,125
その他	595,200	980,099
貸倒引当金	△41,288	△122,720
投資その他の資産合計	1,240,233	1,485,505
固定資産合計	1,621,755	2,228,268
繰延資産	193,696	131,693
資産合計	9,640,048	11,218,229
負債の部		
流動負債		
買掛金	371,789	656,875
短期借入金	900,000	1,220,000
1年内返済予定の長期借入金	1,826,259	1,768,009
未払法人税等	162,504	120,533
賞与引当金	14,572	4,329
会員引当金	132,492	187,042
支払備金	10,514	15,452
責任準備金	199,201	228,849
その他	601,781	868,668
流動負債合計	4,219,115	5,069,761
固定負債		
長期借入金	1,764,563	2,344,699
その他	796,294	1,004,966
固定負債合計	2,560,857	3,349,665
負債合計	6,779,973	8,419,426

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	756,860	756,860
資本剰余金	824,405	829,068
利益剰余金	1,612,159	1,914,898
自己株式	△474,230	△956,988
株主資本合計	2,719,194	2,543,839
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8,570	35,529
その他の包括利益累計額合計	8,570	35,529
少数株主持分	132,310	219,432
純資産合計	2,860,075	2,798,802
負債純資産合計	9,640,048	11,218,229



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年10月1日 至 平成24年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年10月1日 至 平成25年6月30日)
売上高	5,541,233	7,728,281
売上原価	3,045,179	4,530,080
売上総利益	2,496,053	3,198,200
販売費及び一般管理費	1,978,161	2,499,036
営業利益	517,892	699,163
営業外収益		
受取利息	2,429	21,985
受取配当金	1,266	1,190
補助金収入	510	32,822
違約金収入	75,087	—
持分法による投資利益	4,426	2,463
その他	24,298	11,162
営業外収益合計	108,020	69,624
営業外費用		
支払利息	20,901	20,985
貸倒引当金繰入額	61,921	—
保険業法第113条繰延資産償却費	60,950	61,915
その他	1,108	1,627
営業外費用合計	144,883	84,528
経常利益	481,029	684,259
特別利益		
固定資産売却益	7,579	—
投資有価証券売却益	10,612	63,410
特別利益合計	18,192	63,410
特別損失		
投資有価証券評価損	—	122,782
特別損失合計	—	122,782
税金等調整前四半期純利益	499,222	624,887
法人税等	255,344	209,426
少数株主損益調整前四半期純利益	243,878	415,461
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△891	20,873
四半期純利益	244,770	394,588

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年10月1日 至平成24年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年10月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	243,878	415,461
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	11,815	26,867
持分法適用会社に対する持分相当額	△62	91
その他の包括利益合計	11,753	26,959
四半期包括利益	255,631	442,421
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	256,523	421,547
少数株主に係る四半期包括利益	△891	20,873

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

I 前第3四半期連結累計期間（自平成23年10月1日 至 平成24年6月30日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント							その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	コール センター	会 員	企業提携	加 盟 店	少額短期 保 険	自 動 車 賃	計				
売上高											
外部顧客への売上高	486,536	1,725,542	2,358,697	125,832	673,976	169,280	5,539,866	1,366	5,541,233	—	5,541,233
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	5,017	—	—	180,144	2,788	187,950	—	187,950	△187,950	—
計	486,536	1,730,560	2,358,697	125,832	854,120	172,069	5,727,817	1,366	5,729,183	△187,950	5,541,233
セグメント利益又は損失(△)	120,630	499,157	139,439	△217,624	152,551	13,509	707,664	△210	707,453	△189,561	517,892

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、シンプルセキュリティ事業を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△189,561千円には、セグメント間取引消去△4,080千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△185,481千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自平成24年10月1日至平成25年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント							
	コーラル センター	会 員	企業提携	加 盟 店	少 額 短 期 保 険	自 動 車 賃 貸	環 境 メ ン テ ナ ン ス	計
売上高								
外部顧客への売上高	459,075	2,387,708	2,272,492	94,626	1,136,611	79,549	982,114	7,412,179
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	9,791	380	36,369	148,667	127,584	—	322,793
計	459,075	2,397,500	2,272,872	130,996	1,285,278	207,134	982,114	7,734,973
セグメント利益 又は損失(△)	99,206	648,215	172,619	△205,549	120,362	31,915	27,858	894,627

	そ の 他 (注)1	合 計	調 整 額 (注)2	四 半 期 連 結 損 益 計 算 書 計 上 額 (注)3
売上高				
外部顧客への売上高	316,101	7,728,281	—	7,728,281
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	322,793	△322,793	—
計	316,101	8,051,074	△322,793	7,728,281
セグメント利益 又は損失(△)	△13,232	881,395	△182,231	699,163

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、医療機器事業を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△182,231千円には、セグメント間取引消去3,333千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△185,564千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社は、新たに環境メンテナンス事業を開始したことに伴い、当第3四半期連結会計期間から「環境メンテナンス事業」を報告セグメントに追加しております。

なお、当該変更による他の報告セグメントの金額に影響はありません。